学校通信　NO. 2　平成27年10月30日

なかい

北九州市立中井小学校 校長 溝口忠幸

学校教育目標

心身ともに健康な子ども

な…なかよく
か…かしこく
い…いきいきと

平成27年度　全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。
　この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
　なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

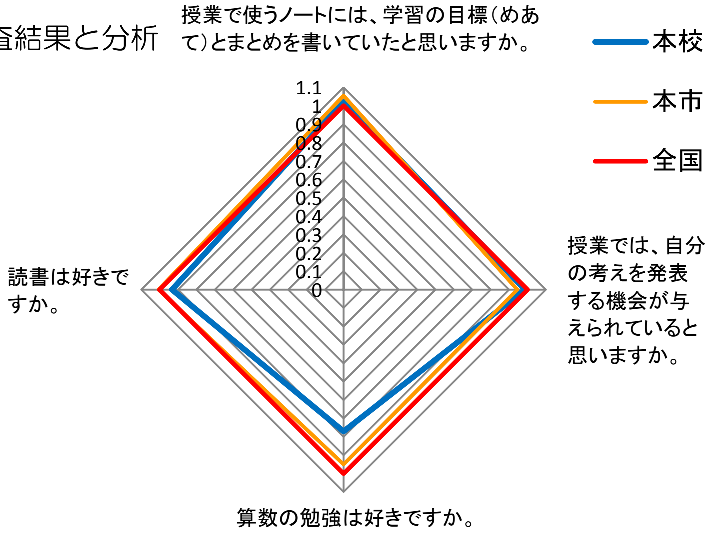
1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	学力の状況
国語A	・多くの問題で全国正答率を上回っているものの、全体として全国正答率を下回っている。 ・文中における主語を捉える問題や漢字の書き取りに課題があるため、文章を読み取る力、漢字を書く力を身に付けていく必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている。
国語B	・全国平均を下回っている。 ・日頃の学習では、量をたくさん書くことはできるが、内容を関係付けたり整理したりしながら自分の考えを書くことに課題があるので、今後は質を高めていく必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている。
算数A	・全国平均を下回っている。繰り上がりのある計算はできるが、小数や分数の計算に課題があるので、基本的な計算を定着していく必要がある。 ・数量関係や図形についての知識・理解に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている。
算数B	・全国平均より下回っている。数学的な考え方に課題がある。 ・割合などの数量関係に課題がある。難しさを感じる問題なので、繰り返し問題を解き、数学的な考え方を定着していく必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている。
理科	・全国平均を下回っている。5つの中で一番全国平均との差が大きい。 ・特に観察・実験の技能の定着に課題がある。器具の名称を正確に覚え、実験を通して適切な扱い方を身に付ける必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている。

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

・学力向上の基礎となる、授業改善の「めあて」「まとめ」の徹底に取り組んできた結果、目標とまとめを書く項目で、全国平均を上回ることができた。
・1日に1回は、小グループでの話合いの場を設けるように授業改善に取り組んできたため、自分の考えを発表する機会を与えることができた。
・読書に対する関心が年々減少の傾向にある。読み聞かせや読書の時間を設置し、本を読む楽しさ、読み取る力を身に付けていく必要がある。
・算数に対する関心が年々減少し、全国平均よりも大きく下回っている。基礎・基本の徹底を図り、一人一人が「わかる・できる」よろこびのわく算数の授業展開を工夫する必要がある。

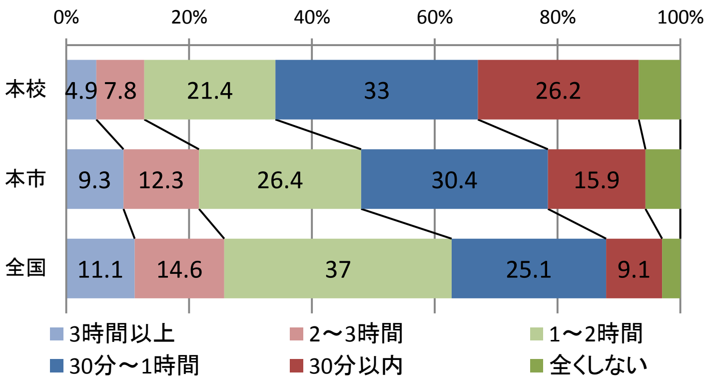


2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

①　家庭学習習慣に関する調査結果と分析

・ほとんどの児童が宿題をしているが、出されたものをするだけで終わっているようで、家庭での学習時間は1時間以下の児童が多い。
・自分で計画を立てて勉強している児童の割合も、全国平均を下回っている。授業の中で、さらに調べたい、学習を深めたいと思えるような問題を投げかけ、学習事例を提示するなど、家庭学習の具体的な取り組み方を指導する必要がある。

学校の授業時間以外に，普段（月～金曜日），１日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）



②　生活習慣等に関する調査結果と分析

・学習の中で話し合う機会を多く取り入れている為、日頃の生活の中でも、自分の考えや意見を発言できるようになってきている。また、自分にはよいところがあると答えた児童が多いことから、自尊感情が高まってきていることが分かる。
・「人の役に立つ人間になりたい」という気持ちは高まっている。しかし、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることまで至っていない。まずは、身近な社会である学級や学校のために何ができるかを考え、行動に移せるようにしていく必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

〇　学力向上に関する職員会議の定期的な実施（学力向上推進委員会を開く）
◎　学力向上のための「学習タイム」を確実に実施する。
・　火：計算、水：読書、金：辞書引き・視写を行う。　〇11・12月はアシストシートに取り組む。
　月、木の朝自習には音読と漢字に取り組む。
・　学力調査・CRTの過去問、アシストシート等のプリントをいつでも使えるように準備する。
〇　過去問、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
・　アシストシート、過去問を宿題とし、朝自習で答え合わせ、解説、やり直しをする。
・　アシストシート、過去問を冊子にして冬休み・春休みの宿題とする。
・　活用力を高めるワークを学習のまとめや宿題で活用する。
◎　学習の中に意識的に「自分の考えを書き、説明する」活動を多く取り入れる。
・　１日に1回は、小グループでの話合いの場を設けるようにする。
◎　算数道場の実施
　給食準備中に管理職等が低中高学年に分かれて担当し、算数の時間にやり残した練習問題などを確実に習熟させるようにする。

②　家庭生活習慣等に関する取組

◎　自主学習のススメ
・　家庭学習の取組例を提示した「家庭学習の手引き」を全校児童に配布する。
・　学級懇談会で各担任が「家庭学習の大切さ」や「実施する際の留意点」を話し、保護者に啓発する。
・　「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用を促し、月に一度は担任が点検をする。
・　お手本となるノートを背面黒板に掲示するなど、自主学習ノート活用の意欲付けをする。
・１１月の学級懇談会で、家庭学習マイスター賞の説明をするとともに、応募を呼びかける。
◎「中井小スタンダード」の徹底
・　４月に全家庭に配布し、周知徹底し、全教員が共通理解のもと指導にあたる。
・　学期ごとに再度スタンダードの確認をし徹底する。
◎　全国学力・学習状況調査の課題と今後の取組等を学校だよりで保護者へ周知する。また、6年生保護者には、学級懇談会の際に結果の概要と児童の得意・不得意なところを示し、今後の家庭学習に生かせるようにする。